

<令和5年度>

地域を中心とした協議体での 取組について

～ 支えあいの地域づくりに向けて ～

そもそも協議体とは

■ 「協議体」とは

介護保険法に基づく「生活支援体制整備事業」

・・・①生活支援コーディネーターの配置 ②協議体の実施

(1) 生活支援コーディネーターとは、高齢者の生活支援等サービスの体制整備を推進するために、多様な事業主体による多様な取組のコーディネート業務を担う者をいう。

→第1層コーディネーター・・・市全域を担当

第2層コーディネーター・・・日常生活圏域（13地区）を担当。

(2) **協議体とは、生活支援等サービスの体制整備に向けて、市が主体となって設置する、多様な事業主体による定期的な情報の共有・連携強化のための会議体をいう。**

13地区における協議体のめざす役割

かつては・・・
暮らしと結びついた
地域活動の展開

- 住民主体による地域活動の展開
- 強固な地域コミュニティの形成

地域活動

- 自治会・町内会
- 防災
- 防犯・交通安全
- ボランティア
- 見守り活動 など



地域住民

現在は・・・
社会構造の変化で
地域生活課題が表出

- 「少子高齢化」
 - ・地域活動の担い手不足
 - ・福祉サービスのニーズ増加
 - 「コミュニティの希薄化」
 - ・孤独死
 - ・空き家の増加
 - ・災害時の不安など
- 新たな課題が表出

地域活動

担い手不足



地域住民



少子高齢化
コミュニティの希薄化

これからは・・・
協議体でネットワーク構築
様々な主体が協力し課題を解決

【協議体の役割】

- 地域の情報交換＝ネットワーク構築
- 居場所づくりや、見守りなど、地域の課題解決のための取組を実施
- 地域の福祉施設・学校・医療機関など様々な主体を結びつけて、地域力強化



地域活動

【協議体】
ネットワーク構築
地域の課題解決



地域住民

令和4年度の協議体の取組事例

地域の情報交換・ネットワーク構築

つながろう鵜沼

地域における孤独・孤立防止を目的に居場所づくり多世代交流として、実施。



地域の情報・魅力の見える化

むつあい応援ノート

六会地区の魅力的な場所・交流の場の情報や、困った時に相談ができる場所などを紹介。



協議体の状況

～主にご参加されている方～

- 自治会・町内会連合会の方
- 民生委員・児童委員協議会の方
- 地区社会福祉協議会の方
- 地区ボランティアセンターの方
- 青少年育成協力会の方
- 老人クラブ連合会の方
- 商店街関係の方
- 地域の縁側の方
- 通いの場の方
- 地域ささえあいセンターの方
- 医療・介護・福祉関係の方
- 市社会福祉協議会の方

など

- ※ 明治地区・遠藤地区・辻堂地区については、郷土づくり推進会議の専門部会と合同で開催されている。
- ※ 会議の名称は、それぞれの会議の中で検討されて決められた。

【御所見地区】
～御所見CS会議～

【長後地区】
～ちょうご見守りネットワーク～

【遠藤地区】
～福祉教育部会(遠藤地区見守りネットワーク会議)～

【湘南台地区】
～湘南台地区いきいき会議～

【湘南大庭地区】
～見守りネット拡大会議～

【六会地区】
～六会地区ケア会議～

【明治地区】
～健康生きがい部会～

【善行地区】
～みまもり善行～

【辻堂地区】
～福祉部会～

【藤沢地区】
～藤沢地区地域支えあい会議～

【鵠沼地区】
～鵠沼地区小地域ケア会議・協議体～

【村岡地区】
～村岡地区協議体～

【片瀬地区】
～片瀬地区協議体～

令和5年度は多くの地区で交流会を実施

<各地区の取組> ～藤沢地区～

【藤沢地区地域支えあい会議】

【参加メンバー】

- 藤沢西部地区自治会連合会
- 藤沢東部地区自治会・連合会
- 藤沢西部地区老人クラブ連合会
- 藤沢東部地区老人クラブ連合会
- 藤沢西部地区社会福祉協議会
- 藤沢東部地区社会福祉協議会
- 藤沢西部いきいきサポートセンター
- 藤沢東部いきいきサポートセンター
- 藤沢公民館
- NPO法人アート・ビーンズ・ファクトリー「まめや」
- 藤沢がんサポートコミュニティわだち・ピアサポ湘南
- ヨロシク♪まるだい
- 憩いの場
- 草の根ふじさわ
- ゆくり庵
- 藤沢地区みらいサロン
- 藤沢市社会福祉協議会
- 地域共生社会推進室

【経過】

- 藤沢地区では、これまでも、「藤沢地区地域支えあい会議」における取組として、「地域の縁側交流会」を2018年に実施。藤沢地区は地域の縁側の数が市内で一番多く、地域の縁側の活動紹介や、情報交換を行う場として開催されました。
- 令和3年度には、藤沢地区内にある施設や、藤沢地区の気軽に立ち寄り、交流や相談ができる場所を紹介した地図「藤沢地区地域支えあいマップ」を作成。藤沢地区内の情報の見える化をすることで、地域の居場所をより身近に感じてもらう取組になっている。

<各地区の取組> ～藤沢地区～

テーマ：孤立解消に向けた地域の見守り

【目的】

地域で孤立せずに暮らすために、地域で何ができるかを考えるきっかけづくり。

【実施概要】 東：2023年11月30日 西：2023年11月27日実施

- ・参加者への日ごろの見守り意識に関する事前アンケート結果等から、藤沢地区の見守り意識を共有し、グループに分かれての意見交換を実施。
- ・東西に分かれて実施。

【参加人数】 参加人数(東)28名 (西)27名

【当日の発言・感想】

- ・見守りの情報共有可能な仕組みが必要。
- ・近所付き合いの「きっかけづくり」が必要
- ・民生委員の補佐的な役割を担う人を各地域団体に作るのはいかがでしょうか。
- ・藤沢地区への移住者が増加していることが多いことから、地域住民の交流会をするべき。



<各地区の取組> ～長後地区～

【ちようご見守りネットワーク会議】

【参加メンバー】

- 郷土づくり推進会議
- 長後地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 交通安全対策協議会
- 防犯協会
- 老人クラブ連合会
- 長後商店街協同組合
- 長後いきいきサポートセンター
- 藤沢市社会福祉協議会
- 長後市民センター
- 地域共生社会推進室

【経過】

- 平成24年度に「ちようご見守りネットワーク」を立ち上げ、地域全体でのゆるやかな見守りを開始。
- 以降、地域資源発見のための白地図作成、居場所づくりの検討、「ちようご見守りネットワーク通信」の掲載内容や、つながりをつくるための方法について考えるグループワークの開催などの取組を続けてきた。
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、対面での活動が難しくなった期間を経て、改めて見守りネットワークを長後地区に根付かせるため、令和5年度にワークショップを開催。

<各地区の取組> ～長後地区～

「第1回ちようご見守りネットワーク ワークショップ」

【目的】

見守りネットワークの大切さを再認識し、見守りの意識を長後地区に浸透させる

【実施概要】 2023年11月15日実施

地域による見守り・ネットワークメンバーによる連携によって、介護サービスや救急要請につながった事例を紹介。その後、グループにわかれて意見交換を実施。

【参加人数】29名 ※ちようご見守りネットワークの構成団体・長後地区郷土づくり推進会議委員に加えて、長後郵便局・高座渋谷郵便局から参加。

【当日の発言・感想】

・直接相手と話をするのは難しいが、日ごろの見守りから情報を得ていくことが大切だと思う。そのような気づきが大切だと思う。

・回数を重ねることで、より見守りネットワークの周知につながると感じた。



<各地区の取組> ～御所見地区～

【御所見地区地域包括ケアシステム推進会議】

【参加メンバー】

- 御所見地区社会福祉協議会
- 御所見地区自治会連合会
- 特定非営利活動法人 偕老会 偕老ホーム
- 社会福祉法人 光友会
- 社会福祉法人 三つ葉会 ガーデニア・ごしょみ
- 株式会社 すこやかグループ
- 御所見市民センター
- 地域共生社会推進室
- 御所見地区民生委員児童委員協議会
- 御所見地区老人クラブ連合会
- 藤沢御所見病院
- 北部障がい者地域相談支援センターかわうそ
- 社会福祉法人 一石会
- 御所見いきいきサポートセンター
- 藤沢市社会福祉協議会

【経過】

- 地区内における生活支援ニーズを把握するため、高齢者に向けたアンケート調査を実施。その結果から「居場所の活性化」を推進するため、地区内の居場所事業を知ってもらい、参加してもらうことを目的に、「ごしょみ集いの場マップ」を作成。
- 令和4年度、御所見地区地域福祉活動計画2026において位置付けられているテーマを共有し、関係する団体と連携するなどして検討を進める。長寿の人生への備えとして、認知症を取り上げ、地区内における認知症への理解普及啓発の取り組みの検討を開始。
- 令和5年度、認知症への理解普及啓発を目的に、ワークショップを開催。

<各地区の取組> ～御所見地区～

市民・家族・支援者のためのわかりやすい認知症講座

【目的】

認知症を自分ごと、家族ごと、地域ごととして捉えるきっかけとなるよう、認知症の理解普及、啓発を行う。

【実施概要】 2024年2月16日実施

「認知症になっても困らない暮らしとは」と題して、(一社)かまくら認知症ネットワーク代表理事である稲田秀樹氏を講師に迎え、講演および個人ワーク、グループワークを実施。

【参加人数】

46名

【当日の発言・感想】

・まずできることとして認知症を知ること、学ぶことが重要だと思う。そうすることで、家族の違和感を見逃すことがなく、早めの相談、対応ができる。それが本人、家族の幸せにもつながると思う。



<各地区の取組> ～湘南台地区～

【湘南台地区いきいき会議】

【参加メンバー】

- 湘南台地区自治会連合会
- 湘南台地区民生委員児童委員協議会
- 地域福祉交流事業 ちょこっと湘南台
- 湘南台市民センター
- 地域共生社会推進室
- 湘南台地区老人クラブ連合会
- 湘南台地区社会福祉協議会
- 湘南台いきいきサポートセンター
- 藤沢市社会福祉協議会

【経過】

○一人ひとりの健康づくりとともに、地区のつながりづくり、見守りのきっかけづくりにつながる公園体操グループ(2024年2月現在11か所)の活動を周知、推進するため、「湘南台いきいきマップ」を作成。(地区内の公園体操の写真・場所・活動日時などを掲載)

○令和4年度(2023年3月16日)、「知ってわかる！認知症」と題して、メモリーケアクリニック湘南の院長、内門大丈氏を講師に迎え、講演およびパネルディスカッションを実施。認知症を自分ごととして捉える第一歩として専門医である内門先生を招いた。

○令和5年度(2023年11月29日)、実際に認知症当事者であるかながわオレンジ大使を講師に迎え、身近なところから認知症を学ぶ、考えるワークショップを開催。

<各地区の取組> ～湘南台地区～

認知症を知ろう in 湘南台

【目的】

・認知症を自分ごと、家族ごと、地域ごととして捉え、認知症になっても安心して生活できる地域を目指す。

【実施概要】 2023年11月29日実施

・認知症新時代～身近なところから希望を～と題して、NPO法人シニアライフセラピー研究所理事長である鈴木しげ氏とかながわオレンジ大使である望月省吾氏を講師に迎え、講演およびグループワークを実施。

【参加人数】

・50名

【当日の発言・感想】

・前向きな挑戦、良い悪いで考えるのではなく有効な考え方をするという「足し算の考え方」の話が印象に残った。

・認知症になる前の経験、人脈、近所づきあいが認知症になっても大きく影響することを学んだ。



＜各地区の取組＞ ～遠藤地区～

【福祉教育部会(遠藤地区見守りネットワーク会議)】

【参加メンバー】

- 民生委員児童委員
- 遠藤地区社会福祉協議会
- シェークハンズ遠藤
- 自治会
- 自治会連合会
- もんのきの家
- 遠藤楽生会
- 秋葉台サンシャイン
- 遠藤いきいきサポートセンター
- 藤沢市社会福祉協議会
- 遠藤市民センター
- 地域共生社会推進室

【経過】

- 令和4年度に遠藤地区で活動する団体にたいして、「見守り」や「生活の様子」に関するアンケートを実施。
- アンケート結果から、地域の見守りネットワークの連携強化や、見守りに対する意識の醸成の必要性が明らかになった。
- 遠藤見守りネットワーク会議の委員だけでなく、日頃から地域で活動している方々も交えた「拡大版会議」として意見交換のワークショップを令和5年度に開催。

<各地区の取組> ～遠藤地区～

拡大版 遠藤見守りネットワーク会議

【目的】

地域でどんな見守りができるのかを考え、各活動団体の取組につなげる

【実施概要】 2024年3月2日実施

遠藤地区で実際に起こりそうな事例を紹介し、年数の経過による身体・環境に変化があった場合も考えながら、グループにわかれて必要なサポートや見守りについて意見交換。また、事例で考えられる活用できる制度やサービスを紹介。

【参加人数】34名 ※遠藤見守りネットワーク・遠藤地区郷土づくり推進会議の構成団体に加えて、慶応大学湘南藤沢キャンパスから先生・学生が参加。

【当日の発言・感想】

- ・自分の今後の生活について思いをめぐらすことができた。正解を導き出すことは難しい会議だと思うので、このように意見交換することが大事だと思った。
- ・ご近所づきあいがしづらいが、あきらめず声掛けの努力も必要だとの話が出た。



<各地区の取組> ～六会地区～

【六会地区ケア会議】

【参加メンバー】

- 六会地区自治会連合会
- 六会地区民生委員児童委員協議会
- ボランティアセンターむつあい
- 中部障がい者地域相談支援センター
ふらっと
- 六会いきいきサポートセンター
- 地域共生社会推進室
- 六会地区社会福祉協議会
- 六会地区老人クラブ連合会
- 藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会
ケアプラン スクナ
- 六会市民センター
- 藤沢市社会福祉協議会

【経過】

- 令和2年度、地域資源の把握に取り組んできたなかで、住民に対する地域資源の見える化と周知を目的に、「知ろう！むつあい応援ノート」を作成。
- 令和4年度、「知ろう！むつあい応援ノート」に地区内にある交流の場の情報や困ったときの相談窓口、公園体操情報、サークル活動、地域団体の活動、集える場所などを追加した「知ろう！むつあい応援ノート ver.2」を作成。
- 令和5年度、地区の福祉を考える取り組みに着手し、高齢期の事例から、見守りやつながり、生きがい探し、長寿の人生の備えを考えるためのワークショップを開催。

<各地区の取組> ～六会地区～

拡大版！地区ケア会議 in むつあい

【目的】

地区で活動している団体が集まり、それぞれの活動における見守りやつながりテーマに高齢期の事例を踏まえて意見交換を行い、生きがい探しや長寿の人生の備えを考えるきっかけとする。

【実施概要】 2023年12月15日

「高齢期を元気に健康で生き生きと暮らすには」と題して、六会いきいきサポートセンターの丸山嘉代氏の講演後、グループワークを実施。

【参加人数】

40名

【当日の発言・感想】

- ・地域のつながりへの第一歩と感じました。
- ・地区の様々な活動を広く知っていただき、参加しやすい場を作っていく必要がある。
- ・多様な主体間の連携の場という目的の第一歩として、顔の見える関係を築くことができ良かった。



<各地区の取組> ～湘南大庭地区～

【見守りネット拡大会議】

【参加メンバー】

- 湘南西部見守りネット
- ときわ会(老人会)
- 二街区自治会
- 管理組合
- 民生委員
- UR都市機構
- 湘南大庭地域包括支援センター
- 藤沢市社会福祉協議会
- 湘南大庭市民センター
- 健康づくり課
- 地域共生社会推進室

【経過】

- 地域包括支援センターで受けている、湘南西部団地での相談件数の増加、相談内容の深刻化を踏まえ、見守りネット・湘南西部自治会と包括、市社協、UR、市民センター及び市役所各課で連携し、湘南西部団地の課題を湘南大庭地区における重要な課題として捉え、協議していくこととなった。
- 湘南西部団地や周辺の住民に、自身の健康や認知症、介護保険、スマホ講座、特殊詐欺対策など、生活に関わる様々な事柄について、イベントを行い、高齢者自身への意識づけを図っている。
- 今年度は、西部団地における見守り意識の強化にも主眼を置き、あんしん見守りカードや緊急通報システムの周知啓発も展開する意向を会議の場で確認した。

<各地区の取組> ～善行地区～

【みまもり善行】

【参加メンバー】

- 善行地区社会福祉協議会
- 善行地区民生委員児童委員協議会
- 善行地区ボランティアセンター
- 善行地区交通安全対策協議会
- 善行地区防犯協会
- 地域の縁側運営団体
- 高齢者関連施設
- 善行地区自治会連合会
- 善行地区老人クラブ連合会
- 善行地区郷土づくり推進会議
- 善行地区生活環境協議会
- 善行地区青少年育成協力会
- 善行いきいきサポートセンター
- 善行市民センター

【経過】

- 令和元年度までは地域の自治会・町内会等に出張し、茶話会形式で地域住民の声を聞くイベント「コミュニティ・カフェ」を実施。その後、郷土づくり推進会議地域福祉部会に引き継ぎ、当該地域の居場所づくりや、ネットワーク会議の立ち上げを支援してきた。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、「コミュニティ・カフェ」が中断した後、会議のあり方を再検討してきた。
- 令和4年度からは、みまもり善行の参加メンバーで、地域の見守りをテーマにしたグループワークを行った。その中で地域の課題整理を進め、拡大交流会の実施につながった。

<各地区の取組> ～善行地区～

交流会テーマ：地域の見守り

【目的】

孤独孤立の課題があり、そのための生きがいつくり・見守り・横のつながりが必要。そのために、協議体の選出母体を中心に、広く団体同士の意見交換を行う。

【実施概要】 2023年9月22日(金) 善行市民センター ホールにて
前半は、各参加団体の紹介の後、事務局から地域福祉計画アンケートの紹介を、地域包括支援センターから、安否確認・地域の見守りに関連するケースの紹介を行った。
後半は、提供されたデータやケースを題材に、グループワークを行った。

【参加人数】

・35人(含む事務局)

【当日の発言・感想】

- ・「外に出てこない」人にどうアプローチするか
自治会未加入→役員の負担が原因か
自分のことは相談しにくい、困っている人は多い
のではないか
→個人の関心を引き出す
麻雀、カラオケ、縁側など資源の紹介
→世代間交流
スマートフォン教室



＜各地区の取組＞ ～明治地区～

【健康いきがい部会】

【参加メンバー】

- 明治地区郷土づくり推進会議
- 明治公民館サークル連絡協議会
- 明治地区社会福祉協議会
- 羽鳥地区社会体育振興協議会
- 明治地区老人クラブ連合会
- 明治地域包括支援センター
- 藤沢市社会福祉協議会
- 明治市民センター
- 健康づくり課
- 地域共生社会推進室

【経過】

○平成29年以降、地域資源等を白地図に落とし込むことによる見える化や、社会資源の理解のため、明治地区にある福祉関連施設の見学ツアーなどを実施。

○令和5年度においては、健康・いきがい部会中心に取り組んでいる「公園体操」事業を推進した。

＜各地区の取組＞ ～辻堂地区～

【福祉部会】

【参加メンバー】 郷土づくり推進会議の部会としての位置づけ(任期は令和6年3月まで)

- 民生委員児童委員協議会
- 公民館評議員会
- 社会体育振興協議会
- ネットワーク湘南堂夢
- いきいきサポートセンター
- 地区ボランティアセンター
- 障がい者地域相談支援センター
- 公募委員

※辻堂市民センター・地域共生社会推進室が事務局

【経過】

○「みんながいつまでも元気に、その人らしく暮らせるまち」になるように、地域で支えあう仕組みをつくっていくために、取組を進める。

＜取組事例＞

- 障がい理解(防災の視点から当事者家族を交えた避難設備見学。「かぐやびより」映画上映。)
- 認知症理解(子どもを対象とした啓発)
- ヤングケアラーへの理解を深める活動(研修会の実施) など

<各地区の取組> ～村岡地区～

【村岡地区協議体】

【参加メンバー】

- 村岡地区自治町内会連合会
- 村岡地区社会福祉協議会
- 村岡地区福祉ボランティアセンター
- 地域支えあいセンターきらり
- 医療法人社団清心会
- 藤沢市社会福祉協議会
- 村岡公民館
- 村岡地区民生委員児童委員協議会
- 村岡地区老人クラブ連合会
- 村岡いきいきサポートセンター
- 村岡テラス
- 社会福祉法人吉寿福祉会
- 地域共生社会推進室

【経過】

- 平成30年～令和元年にかけて、村岡地区にある様々な社会資源の見える化につながる作業を行い、気軽に集える場所が少ない課題が多世代が気軽に集えて交流できる「よりどころ弥勒寺」を4回実施。
- コロナ禍においては、地域防災の取組として、高齢者個別訪問や、災害時に必要な物、日頃の備え」をテーマに、講座を実施。
- 昨年度については、取組等で課題を抱えてる地区に伺い、協議体で課題の対応方法について検討をし、居場所事業を行う自主運営組織の立上げに協力。

<各地区の取組> ～村岡地区～

交流会テーマ：身近な居場所・交流

【目的】

地域に潜在している活動や、新しい取組をしたいという思いを持った担い手の発掘、地域活動をする中でのモヤモヤといった地域の生の声を聴くために実施。

【実施概要】2023年10月27日実施

協議体の目的及び居場所の大切さについて説明後、地区内の自主運営組織のインタビュー形式の団体発表を行い、グループワークを実施。

【参加人数】

45人。(事務局含む)

【当日の発言・感想】

- ・近所で気軽に集まる場が持てれば良いなと思った。「笑顔」「楽しむ」ことが大事。
- ・自治会館の有効活用として、出張サロンがあると嬉しい。
- ・サロンには男性の参加者が少なく、地域とのつながりをどう持つか、課題。
- ・他団体交流を通じて、交流の大切さを知った。



<各地区の取組> ～鵜沼地区～

【鵜沼地区小地域ケア会議・協議体】

【参加メンバー】

- 鵜沼地区郷土づくり推進会議
- 鵜沼地区町内会自治会連合会
- 鵜沼南部地区老人クラブ連合会
- 鵜沼地区社会福祉協議会
- 鵜沼南地区民生委員・児童委員協議会
- 鵜沼東地区民生委員・児童委員協議会
- 藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会
- 鵜沼市民センター
- 鵜沼東地域包括支援センター
- 鵜沼南地域包括支援センター
- 藤沢市社会福祉協議会
- 藤沢市地域共生社会推進室
- 藤沢市高齢者支援課

【経過】

- 鵜沼地区の高齢者が地域で安心して住み続けられるよう、検討、連携をしていく場として会議を開催してきた。
- 地域の高齢者等が安心して住み続けられるよう、地域の見守り活動に取り組む様々な団体を知り、連携するきっかけとなることを目的として、定期的に団体や企業が集まる交流会「つながろう鵜沼！」を、平成30年度から開催。令和5年度末までで、計7回実施している。
当日の団体発表や情報交換を通じて、参加者同士の顔の見える関係づくりを進めている。

<各地区の取組> ～ 鵜沼地区～

交流会テーマ：地域の見守り

「つながろう 鵜沼！」

【目的】

地域の高齢者等が安心して住み続けられるよう、地域の見守り活動に取り組む様々な団体を知り、連携するきっかけとなることを目的とする。

当日の団体発表や情報交換を通じて、参加者同士の顔の見える関係づくりをめざす。

【実施概要】

年2回開催。各回、鵜沼地区にゆかりのある地域団体や民間企業など2団体が活動を発表し、その内容を元にグループで「見守り」「つながり」をテーマに話し合いを行う。

今年度は2023年9月25日に第1回を実施し、第2回を2024年3月14日に実施予定。

【参加人数】

各回 約80人

【当日の発言・感想】

・ 普段知ることの出来ない方々の活動等を知ることが出来て、勉強になりました。身の回りの方にも情報として伝えて、つながりをもってもらえるの良いなと思いました。

【9月実施 第2部交流会の感想】



<各地区の取組> ～片瀬地区～

【片瀬地区協議体】

【参加メンバー】

- 片瀬地区自治町内会連絡協議会
- 片瀬地区民生委員・児童委員協議会
- 片瀬地区社会福祉協議会
- 片瀬地区老人クラブ連合会
- 居宅介護支援センター鵠生園
- 片瀬いきいきサポートセンター
- 片瀬市民センター
- 藤沢市社会福祉協議会
- 地域共生社会推進室

【経過】

- 片瀬地区では、平成30年度末に片瀬地区の地域資源をまとめた「地域資源マップ」を作成。その後、マップの有効活用等といった、周知方法について議論。
- 令和3年～4年にかけて後期高齢化率や介護認定率が市内で高いという特徴を踏まえ、「片瀬地区内の自治会町内会ヒアリング」を実施。ヒアリングを通じて介護保険や、終活をどのように捉えているかを確認。
- 参加している団体の取組共有を行い、団体毎の連携について議論し、団体同士の連携から介護保険の周知を含めた講座を団体で実施することにつながった。

<各地区の取組> ～片瀬地区～

交流会テーマ：認知症

【目的】

・認知症を正しく理解し、認知症になった人の気持ちを「自分ごと」と捉え、地域のつながりの中でも何ができるのかを考えるきっかけづくりのために実施。

【実施概要】 2023年11月27日実施

・「認知症とは～認知症への理解～」と題して、高齢者支援課職員より講演後、認知症を深める寸劇を交えて、グループワークを実施。

【参加人数】

37名(事務局含む)

【当日の発言・感想】

- ・誰でも認知症になる恐れがあるので、受け入れることが大事。
- ・地域のつながりをもっと持てるようになりたいと思った。
- ・認知症でもその人の役割を引き続き担ってもらうことが大切。
- ・民生委員、自治会、老人会等の地域の団体が連携し、見守っていくことが大切。

